サポート情報記事

Discussions の API アクセス許可と管理者の同意

2026 © Vitextra SIA. All rights reserved.

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

概要 4

レビュー担当者向けの概要 4

ソリューションが呼び出すもの 5

インストール時に管理者に表示される内容 6

Microsoft Teams アプリ 7

テナントの外に出るもの 7

メール送信アクセス許可の所在 8

概要

多くの SharePoint Framework ソリューションは、テナント管理者が SharePoint 管理センターの **API アクセス** (API access) ページで承認しなければならない Microsoft Graph アクセス許可を宣言します。Discussions はそうではありません。このパッケージは **API アクセス許可要求を一切宣言せず**、Microsoft Entra ID に**アプリケーションを登録せず**、ユーザーにも管理者にも**同意のプロンプトを表示しません。** Web パーツが行うこと、つまりボード、トピック、返信、サブスクリプション、添付ファイル、画像の読み書きや、@メンションのためのユーザー検索はすべて、ボードが置かれたサイトの SharePoint REST API を通じて、サインインしているユーザーとして行われます。

この記事では、セキュリティ レビューのためにこの事実を明記し、インストール時に管理者に何が表示され、何が表示されないかを説明し、テナントの外に出るわずかな情報を列挙します。

レビュー担当者向けの概要

質問	回答
パッケージが要求する Microsoft Graph アクセス許可は?	なし
その他の API アクセス許可 (Azure DevOps、カスタム API) は?	なし
展開後に **API アクセス** ページに表示される項目は?	なし。承認または却下するものはありません
独自の Microsoft Entra アプリ登録やサービス プリンシパルは?	なし
管理者またはユーザーの同意プロンプトは?	なし
データ アクセスに使われる ID は?	すべての要求で、サインインしているユーザー
呼び出される API は?	現在のサイトの SharePoint REST API の

質問	回答
	み
アプリケーション (app-only) のアクセス許可、サービス アカウント、保存された資格情報は?	なし
Vitextra やサードパーティに送信されるコンテンツは?	なし。技術的な識別子を伴うライセンス確認と使用状況テレメトリのみ
サイトでカスタム スクリプトは必要ですか?	いいえ

ソリューションが呼び出すもの

Web パーツは SharePoint Framework の HTTP クライアントを使用し、すべての要求を現在のユーザーの ID で送信します。SharePoint は、**サイト コンテンツ (Site contents)** のリスト ビューに対するのとまったく同じように、各呼び出しにユーザーのアクセス許可を適用します。使用されるエンドポイントは次のとおりです。

- 現在のサイトの**リストとリスト アイテム** – マーカー列によって Discussions のリストを見つけ、初回使用時にリストを作成し (この 1 つの操作にだけ**リストの管理**が必要です)、ボード、トピック、返信、サブスクリプション、いいね、報告、承認状態を読み書きします。
- **リスト アイテムの添付ファイル** – トピックと返信に添付されたファイル。
- ドキュメント ライブラリ `Discussions Assets` の**ファイルとフォルダー** – リッチ テキスト エディターのインライン画像。
- SharePoint の**ユーザー選択サービス** – `@` を入力した後に表示される候補と、選択したユーザーのサイト ユーザーへの解決。これは SharePoint 標準のユーザー選択コントロールが使うのと同じサービスで、Microsoft Graph は呼び出しません。
- サイトの**ユーザー情報リスト** – 作成者名と現在のユーザーの ID。

Microsoft Graph、Exchange、Teams、その他の Microsoft 365 サービスへの要求は一切なく、Web パーツがメールを送信することもありません。リストと列の完全な一覧は KB10411. Discussions がデータを保存する場所: リスト、列、プライバシーにあります。

メモ

ユーザー自身のアクセス許可が適用されるため、Web パーツは SharePoint がリストで表示する以上のものを誰にも表示できません。閲覧者には承認済みのトピックが、モデレーターには承認待ちのトピックが、ゲストにはサイトのアクセス許可で許される範囲が表示されます。役割モデルは KB10408. Discussions のアクセス許可: 閲覧、投稿、モデレートできるのは誰かで説明しています。

インストール時に管理者に表示される内容

1. パッケージ `vitextra.discussions.sppkg` をテナントのアプリ カタログ (またはサイト コレクションのアプリ カタログ) にアップロードし、**アプリの有効化** (Enable app) で有効にします。ダイアログにはスクリプトの読み込み元ドメインが示され、**すべてのサイトに追加** (Add to all sites) が提案されます。パッケージがアクセス許可を宣言していないため、アクセス許可のセクションは表示されません。

2. **API アクセス** ページ (**SharePoint 管理センター → 詳細 → API アクセス**) は変わりません。**保留中の要求** (Pending requests) に *Vitextra Discussions* からの要求は表示されず、承認するものは何もありません。組織で承認済み API アクセス許可の記録を管理している場合、Discussions の項目は単に「要求なし」です。

3. Web パーツは他の Web パーツと同じようにページに追加され、**リストの管理**を持つ最初のユーザーがボードを作成します。ユーザーに同意ダイアログが表示されることはありません。

インストールと更新の手順は、他のすべての Vitextra 製品と同じです。KB10035. SharePoint Online に Vitextra 製品をインストールする方法、KB10050. SharePoint Online で Vitextra SPFx ソリューションを更新する方法、KB10361. テナントのアプリ カタログとサイト コレクションのアプリ カタログ: Vitextra アプリの展開先を参照してください。アクセス許可を*要求する*パッケージの一般的な手順は KB10360. SharePoint 管理センターで Vitextra ソリューションの Microsoft Graph API アクセス許可を承認する方法にありますが、Discussions ではその記事は不要です。

警告

更新後に *Vitextra Discussions* からの要求が **API アクセス** ページに表示されることがあれば、それは新しいバージョンが宣言したものであり、そのバージョンのリリース ノートに記載されます。バージョン 26.10.2 は何も宣言していません。

Microsoft Teams アプリ

アプリ カタログがタブと個人用アプリ向けに生成する Teams アプリ パッケージも、Microsoft Graph のスコープを宣言しません。そのマニフェストが参照するのは、SPFx タブがユーザーをチーム サイトにサインインさせる標準の仕組みである SharePoint Online 自体と、通常の SharePoint および Microsoft 365 のサインイン ドメインだけです。そのため、Teams 管理センターでこのアプリに付与すべき API アクセス許可は表示されません。アプリを Teams に追加する方法は KB10393. Discussions を Microsoft Teams に追加する方法で説明しています。

テナントの外に出るもの

目的	送信される内容	送信先
製品ファイル	Web パーツのスクリプトとアイコンに対する通常のブラウザー要求	`static.vitextra.com`
ライセンス確認	テナント ID、ユーザーのオブジェクト ID、サイトのアドレス、製品の識別子、名前、バージョン	`vitextra.com`
使用状況テレメトリ	Web パーツの読み込み時のイベント (製品とバージョン、サイト ID とアドレス、ユーザーのオブジェクト ID、インターフェイスの言語、Teams で実行されているかどう	Azure Application Insights

目的	送信される内容	送信先
	か) とエラーの技術的な詳細	

トピック、返信、添付ファイル、画像、サブスクリプション、ユーザー一覧が Vitextra やサードパーティに送信されることはありません。データ所在地と GDPR を含む Vitextra 製品全体の概要は KB10363. Vitextra 製品がデータを保存する場所: プライバシー、データ所在地、GDPRにあります。

メール送信アクセス許可の所在

Discussions は意図的にメールを送信しないため、*Mail.Send* も、メールボックスの代わりに送信するためのアプリケーション　アクセス許可も必要ありません。Web パーツは `Discussions Subscriptions` リストと **Mentions** 列を管理し、配信はサイト所有者が自分の環境に設定する Power Automate フローの役割です。このフローは、作成した人の接続、つまりリストを読み取るための SharePoint 接続と、送信のための Office 365 Outlook (または共有メールボックス) 接続を使用し、これらの接続への同意は、組織がフローに既に適用しているガバナンスのもとで Power Automate 内で行われます。リストとフローの間のコントラクトは KB10414. Discussions の通知のしくみ: サブスクリプション、メンション、Power Automateで説明しています。

ヒント

セキュリティ質問票には次のように記載できます。「このソリューションは、API アクセス許可要求を宣言せず、独自の Entra ID アプリケーションを持たず、サインインしているユーザーの委任された ID でホスト サイトの SharePoint REST API だけを呼び出し、すべてのコンテンツをそのサイトのリストに保存し、ベンダーにはライセンスとテレメトリの識別子だけを送信する SharePoint Framework パッケージです。」どの記述も、アプリ カタログ、**API アクセス**ページ、ブラウザーのネットワーク トレースで検証できます。